

# 保健体育科

## 1 教科目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

## 2 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、保健体育科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活に置ける健康・安全について科学的について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

## 3 評価の資料

保健体育科の特性に応じた観点別評価の資料として、以下のものを用いることとします

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査等のテスト</li> <li>・ 観察</li> <li>・ 技能テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りフォーム</li> <li>・ 思考・判断・表現テスト</li> <li>・ 観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察</li> <li>・ 提出物の内容</li> </ul>

## 4 評価別評価及び評定の基準

評価・評定は原則として、以下の基準に従って決定します。

<p>(1) 観点別評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各観点の評価資料を点数化し、満点に対する点数の割合を達成率とし、以下の通り、3段階の評価を行う。</li> </ul> <p>A : 80%以上</p> <p>B : 50%以上 80%未満</p> <p>C : 50%未満</p>	<p>(2) 評定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの観点別評価の達成率の平均を求め、以下の通り、5段階評価を行う。</li> </ul> <p>5 : 90%以上</p> <p>4 : 80%以上 90%未満</p> <p>3 : 50%以上 80%未満</p> <p>2 : 20%以上 50%未満</p> <p>1 : 20%未満</p>
--	---

国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習に関する参考資料（中学校 保健体育）」を参考に評価基準を設定しております。この資料には、「評価基準に盛り込むべき事項」と「評価基準の設定例」があります。「評価基準の設定例」は、原則として、学習指導要領の各教科の目標、学年(又は分野)の目標及び内容のほかに、当該部分の学習指導要領解説の記述を基に作成されています。本校では、その資料を参考に評価基準を設定します。例えば、次の「5 年間指導計画」でもわかるように、学習指導要領では7・8学年と9学年の内容が異なります。また、3つの観点バランス良く向上することを目指します。例えば技能だけ高くても十分に満足できると判断されないことがあります。また、思考・判断・表現の評価資料となる振り返りフォームで具体的に書かれていても、実際の授業の中、実態と合っていないと十分に満足できると判断されないことがあります。

## 5 年間計画指導計画

	7・8年生	9年生
1学期	体育理論 集団行動 体づくり運動 陸上競技 ダンス 水泳 保健	体育理論 集団行動 体づくり運動 陸上競技 ダンス 水泳 保健
2学期	体育理論 水泳 球技 柔道 器械運動 保健	体育理論 水泳 球技 柔道 保健
3学期	体育理論 球技 ダンス 保健	体育理論 球技 保健

## 6 指導と評価の工夫

### ① 教科目標である豊かなスポーツライフの実現のための資質・能力を高める授業

平成20年度の学習指導要領の改訂以前から運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられています。目標にある、「豊かなスポーツライフの実現のための資質・能力を高める」ために、それぞれの運動の特性を整理し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるように指導内容を検討しています。

また、運動とスポーツとの多様な関わり方を巡視する観点から、体力や技能の程度、性別や生涯の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができる授業を目指します。

例) ネット型のバレーボールの授業では、導入段階でキャッチを可能とするキャッチバレーを採用

### ② 個別指導の時間を増やす学習形態の工夫

9年生で自主的な学習を目指します。自ら学習する生徒が増えれば、一斉指導の時間が減り、教員の個別指導が増えます。そのために実態にあわせて学習形態を一斉指導、ペア学習、グループ学習のバランスを考えています。ペアやグループを作る際はねらいに応じて能力別、課題別等の工夫を行っています。